



大野市教育委員会たより

令和元年11月29日発行 第39号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：11月19日（火）午後7時～8時50分	場所：下庄小学校多目的ホール
対象者：下庄地区住民（出席者数22人）	
次第：教育長挨拶、1部 説明「大野市の教育について」、2部 意見交換「大野市の教育環境について」	

※以下は、「2部 意見交換」で地区住民の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※地区住民からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

- ◎乾側小の校舎を建てることについては、再編に関係なく、耐震のためにするというだけでよいのか。
⇒■再編計画を見直ししているところであり、現在は計画がない状況である。耐震性がない校舎の対策として、リースで軽量鉄骨による校舎を建てることを検討している。
- ◎再編計画で小学校2校、中学校1校になると聞いた時はびっくりした。下庄小がなくなることにショックだった。また、子どもたちと公民館が一体となった素晴らしい施設である有終西小（学びの里「めいりん」）がなくなるということについても寂しく感じた。地域とつながりを大切にする教育を進めるとしているのに、地域から子どもたちがいなくなるのは矛盾していると思う。
⇒■めいりんは他にはない施設と思っている。今は、再編や教育環境について皆さんがどのように思っているかをお聞きし、その意見を計画の見直しに反映していきたいと考えている。めいりんをどのようにしていくかの考えは現在はない。
⇒◎まちなかが寂しくなるのはデメリットだと思う。
- ◎学校は必要があって作られるものである。子どもが多かった昔は、家庭科室なども教室にしたし、プレハブの校舎もあった。学校が維持できなくなった場合は再編せざるを得ないと思う。再編計画で3校を新築するとしていたが、市の財政が大丈夫なのか心配している。耐震した学校もたくさんある。再編後、空き校舎をどうするのかも疑問である。また、高齢者、子育て世代、子ども自身それぞれがどう考えているかを腹を割って話をしていくべきと考える。
⇒■再編は、子どもたちに質の高い教育環境を提供することを考えていくべきと思っている。子どもたちの意見としては、今年、小学校6年生と中学校2年生にアンケートを行っている。総合的に多くの方から意見を聞きながら、教育の質の維持を最優先に考えてやっていきたい。
⇒■再編計画では、小学校2校、中学校1校の計3校を105億円をかけて新築していく内容だった。経費の支出内訳を大まかに説明すると、経費の半分は国・県の補助金を、残りの半分の90%は市債（借金）、10%は市が該当年度に支出する方法となる。市債（借金）は10年ぐらいかけて、支払うことになる。
- ◎教育とは、クラスに弱い子、体力がある子などいろいろな子どもが集まり、その環境に子どもたちを置くことによって、弱い子にはいたわる、優しい気持ちを持つなどグループの中で学ぶことである。いろいろな子が集まらないと教えられることがある。クラブ活動では上下関係を学ぶ。小さい学校だと塾と同じである。良いことや悪いことは事例がないと先生も教えられる。同じ年代の遊びで覚えたこともある。これまでの教育現場の経験

に基づき、少子化の中で教育はこうしていくべきだと信念を持って語ってほしい。

⇒■そのとおりだと思う。市民の方々からいろいろなことをお聞きする部分と、この部分からは教育関係者として、このように考えるんだと色分けをしないと駄目だと思っている。計画をまとめる時は、理由と説明、構想を示していくことになると思う。陽明中でお世話になった時も、学校をどうしたいのかを真剣に考えながらやってきた。再編は、大野の教育がこうあるべきだと追求していく取り組みだと思う。この取り組みに対して国や県からのアドバイスはないので、頑張ってやっていきたい。

◎めいりんは、昼は学校、夜は生涯学習施設になる画期的な施設である。福井市でも子どもが減っている中、福井市順化小と順化公民館をめいりんのような施設の方法を取り入れて整備しようとしている。

◎教育シンポジウムが開催され、講師の松木先生が斬新な学校再編の方法を提示されたと思うが、そのような方法を取り入れる考えは持っているか。

⇒■めいりんのような複合施設や、学校施設にコンビニを入れたり、近くに病院があったりなど、学校単体というのではなく、いろいろな方が集まれるセンター的な機能を備える方法もあるという話であったと思う。これからは、そのような機能が求められると思う。

⇒■小中学校では、家庭と特に地域との連携ということで、公民館を核にダイナミックな学習を展開している。再編で地区から学校がなくなった場合、核となるのは地域コミュニティだという話も松木先生はされていた。そのようなことも考慮しながら再編を考えていく必要があると思っている。

◎2年前に中学校1校、小学校2校の案が出た時、日本に黒船が来た時に右往左往していた状況と同じように感じた。学校を3つに絞るという衝撃は今も残っている。六呂師小が阪谷小に再編された時期に、複合施設としてめいりんが整備された。子どもはどんな環境でも学ぼうとしてくれると思う。

⇒■どのような教育環境を目指すかをしっかり定めていきたいと思う。

◎平成16年から再編が始まっていると説明があったが、それは教育委員会の中だけである。なぜ学校へ来て勉強するかというと、人のために役に立つためであると思う。学校再編は教育の再生ぐらいの気持ちでやらないといけない。学校は人間のベースアップセンターにならないといけない。学校は現在の数とは言わないが、ある程度の学校の数にして欲しい。

⇒■人の役に立つということも大事であるが、集団の中で、お互いに助け合ったり、自分の弱い所を出したり、間違ったことを学んだりしながら、共生社会で生きていく人間を作っていくのが学校教育であると考えている。

◎ある規模の学校にしないといけないのは分かる。家族や校区の住民、地域の協調社会の中で子どもは育てていくべきと思う。それを踏まえて、学校の適正な規模を考えていかないといけない。以前は、子どもを育てることに對して効率主義を前面に出していたと思う。それぞれの地域で育てることを見失ってはいけない。

⇒■人間味豊かに地域で育つことが大野の良い所だと思う。再編すると校区が広がり、地域との関係が薄くなることについては、他の意見交換会でも言われている。

⇒◎乾側小が旧蔵生小へ行くことになったが、近くの有終西小へ行けなかったのか。

⇒■そのことは、教育委員会でも考えた。違う文化や歴史を持った学校が1つの学び舎の中にあるということになると、小さい学校の独自性が失われてしまうと考えた。小さい学校でも小さい学校として、乾側小の姿をしっかり確保してあげたいと思った。悩みながら保護者の方と話をした。

◎子どもの頃、小学校の登下校での道草は思い出になっている。再編するとスクールバスで通うことになる。歩いて通うことで体力を養ったり、友だちと話しながら歩く登下校の楽しみなどがなくなったりする。また、校庭に

バスが入ってくると危険である。小学校は散らばって何校かあった方がよい。中学校はたくさんの人数がいたので、とても楽しかった。年代によって再編を考えて欲しい。

⇒■小学校の再編内容が具体的に決まっていないため、スクールバスのルートや台数なども示せていないので、ご不満に思われていることは感じている。バスへの不安は、これまでの意見交換会でもお聞きしている。通学環境については配慮していきたい。

⇒■小学校と中学校の使命は子どもの成長の度合いなどもあるため違うと感じている。

⇒◎現在運行しているスクールバスは、各集落を回るルートとなっていて、登下校の環境としては悪いと思う。朝、5分でも10分でも早く家を出ることは負担になるので、遠いところの子どもに対しては、特別のダイヤにするなど、学校生活へのしわ寄せがないように便数には十分配慮した方がよい。

⇒■保護者の不安の一番は、登下校の時間と方法である。

◎小規模校にも、大規模校にもそれぞれメリット、デメリットがある。学校ではいろいろな子ども同士での出会い、教師との出会いがある。教員をしていた時、複式学級は人数が少なく難しいと感じていた。地域のつながりがあると思うが、人数を増やすために、校区の編成を変えていく考えはないのか。

⇒■校区の編成を変えていくことも1つの方法であると思う。

⇒◎小さい学校が大きい学校へ行くばかりが再編ではないと思う。大きい所から小さい所へ行くのも1つのやり方と思う。

⇒◎行政区と校区については、いきさつや歴史があるため、すぐに断ち切れるものではない。子どもにとって学校とは何かの原点を見失わないようにしていかないと、再編の問題は非常に解決しにくくなる。

⇒■地域か子どもかという選択の問題ではないと思う。

⇒◎再編はスピード感を持ってやるべきと思う。あまり遅いと小さい子どもを持つ保護者は大野に見切りをつけて福井市などへ移ってしまい、子育て世代がどんどん減っていくと思う。

⇒■保育所やこども園の保護者からも同じような意見をいただいている。

◎どうしても新しい学校を建てないといけないう。十分に活用できる学校が残っている。村部の学校は、都会から人を呼び込むことが出来る教育を展開できる施設であると感じる。それぞれの学校が特色ある教育をされたらどうかと思う。

⇒■小規模教育特認校のような可能性もあると思う。

◎校区を変えることについては、そんな簡単に変わることが出来ないことを学校の保護者の時に体験した。再編は1回で済まないと思う。段階を踏んで、大野に合った形にしていくことが必要と思う。



お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました各地区の区長様及び地区住民の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

